

2016年3月期(第49期)

決算説明会 資料

ジーエルサイエンス株式会社
2016年5月27日

1. 中期経営計画について
2. 2016年3月期(第49期)のトピックス
3. 主要製品（イナートファミリー）の動向
4. 新製品の紹介
5. 市場戦略について
6. 業績推移と計画



中期経営計画について (2016年3月期～2018年3月期)

中期経営計画と実績について(連結)



連結

(単位:百万円)

	第48期	第49期 (2016年3月)			第50期 (2017年3月)			第51期 (2018年3月)		
	実績	計画	実績	達成率	計画	49期比 増加額	49期比 伸び率	計画	50期比 増加額	50期比 伸び率
売上高	18,144	18,588	18,499	99.5%	19,655	+1,155	6.2%	20,727	+1,071	5.5%
売上総利益	6,045	6,073	6,088	100.2%	6,425	+337	5.5%	6,716	+290	4.5%
営業利益 (営業利益率)	887 (4.9%)	844 (4.5%)	955 (5.2%)	113.2% (+0.6pt)	1,041 (5.3%)	+86 -	9.0% (+0.1pt)	1,214 (5.9%)	+172 -	16.6% (+0.6pt)
経常利益	1,036	842	1,097	130.3%	1,119	22	2.0%	1,256	136	12.2%
税引前利益	997	842	1,105	131.2%	1,119	14	1.3%	1,256	136	12.2%
当期純利益	680	569	836	146.9%	800	▲35	▲4.3%	881	80	10.1%

中期経営計画の基本方針



1. 新製品開発力の強化(新製品早期リリースの実現)

- ・新製品の早期市場投入に向けた会議体の発足
- ・社内資源にこだわらず、外部からの資源の取り込みも調査中

2. 全社業務改革

- ・営業の販売管理システムを2016年～2018年にかけて改善中
3つのフェーズに分けて取り組んでおり、第1フェーズでは営業業務を中心としたシステムを改変予定。10月スタートに向け準備中
- ・クラウドを利用した営業支援システムを5月運用開始
(営業員のお客様訪問履歴のデータ化など)
- ・倉庫業務のバーコード化本格稼働開始

3. 新規事業の柱の創出

- ・新規事業の創設に向け共同開発などにも参画

中期経営計画と実績について(単体)



GLS単体

(単位:百万円)

	第48期	第49期 (2016年3月)			第50期 (2017年3月)			第51期 (2018年3月)		
	実績	計画	実績	達成率	計画	49期比 増加額	49期比 伸び率	計画	50期比 増加額	50期比 伸び率
売上高	11,710	11,800	11,618	98.5%	12,300	+681	5.9%	12,800	+500	4.1%
売上総利益	4,001	4,125	4,115	99.8%	4,347	+231	5.6%	4,480	+132	3.1%
営業利益 (営業利益率)	514 (4.4%)	534 (4.5%)	639 (5.5%)	119.7% (+1.0pt)	650 (5.3%)	+10 -	1.7% (▲0.2pt)	800 (6.3%)	+150 -	23.1% (+1.0pt)
経常利益	661	600	784	130.7%	717	▲67	▲8.5%	879	162	22.6%
税引前利益	682	600	800	133.3%	717	▲83	▲10.4%	879	162	22.6%
当期純利益	522	420	605	144.0%	502	▲103	▲17.0%	615	113	22.5%
海外売上高	1,290	1,600	1,688	105.5%	1,800	+111	6.6%	2,000	+200	11.1%
海外売上比率	11.0%	13.6%	14.5%	+1.0pt	14.6%	-	+0.1pt	15.6%	-	+1.0pt



2016年3月期(第49期)のトピックス

- 1年間に渡る新人教育の実施
- 階層別研修や部署マネジメントにおける研修の実施(外部派遣含む)
- 海外市場(主にインド、中国)におけるHPLCカラムの大幅な売上増
- 2～3月の新型アクアトレースの大量出荷
- 倉庫業務におけるバーコード化本格稼働
- 中期経営計画達成に向けての準備
 - ～ 社内業務改革の一環として(ICTの活用) ～
 - クラウドを利用した顧客管理システムの整備・・・5月運用開始
 - 販売管理システムの整備・・・10月運用開始予定
 - ホームページリニューアル
- 生産部門新棟建設の再検討

1年間に渡る新人教育の実施



昨年度より、新卒新入社員における教育研修や配属時期を大幅に見直し、本配属先以外の数部署にて1年間の実務研修を実施しました。本取り組みは今年度も引き続き継続して取り組んでいます。

◆研修の狙い

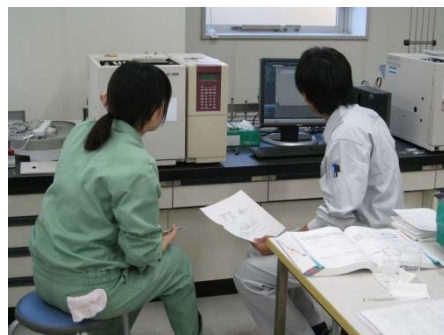
- ①当社の各種基本業務の基礎を理解してもらう
- ②複数の部署を経験することにより各部門の繋がりや関係を理解してもらう
- ③人的ネットワークの形成
- ④自身の今後の適性を把握する材料にしてもらう

新人の意見

- 1年間の研修はありがたく、良い経験だったが、その反面、早く配属されて戦力になりたいという声も聴かれた。
- 様々な部署での経験と人脈作りは、今後の仕事にも役立つとの意見が多数聴かれた。

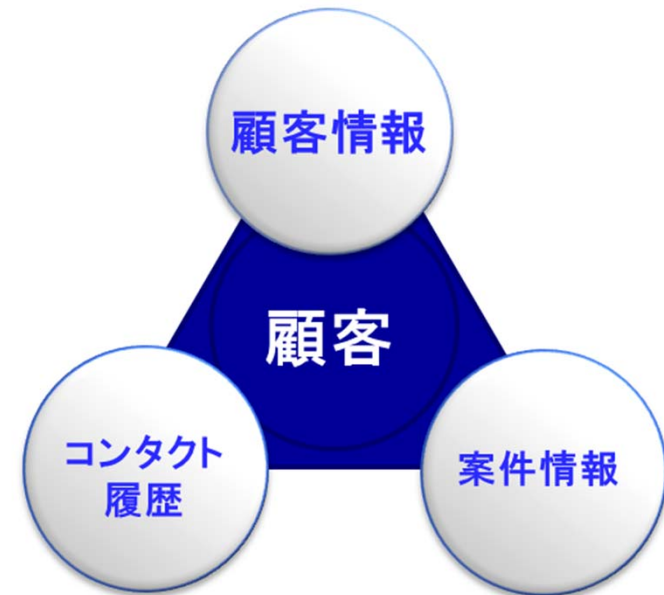
研修先の意見

- 受入先となる部署は負担が大きかった。
- 教えることで、教える側が気づく事があった。
- 教えることの難しさを改めて理解した。
- 適正を見てから配属先を決めてはとの意見もあった。



営業支援システム

- 顧客情報の一元管理
- コンタクト履歴管理
- 顧客に紐づく案件管理



クラウド上で利用可能。
2016年5月に運用を開始。

島津製作所様との業務提携による活動

①海外販売

- 主に中国市場における、島津製作所の分析機器とジーエルサイエンスの前処理装置・器具の組合せによる共同マーケティングおよび部品・消耗品を中心とした販売合併会社として、2007年10月1日 島津技迹（上海）商貿有限公司を設立
- 今年度より、欧米を中心に活動開始

②国内販売

- 展示会、セミナーおよび講習会の共同開催などの共同セールスプロモーション
- JASIS（分析展）をはじめ、水質・環境セミナーなどの共同開催

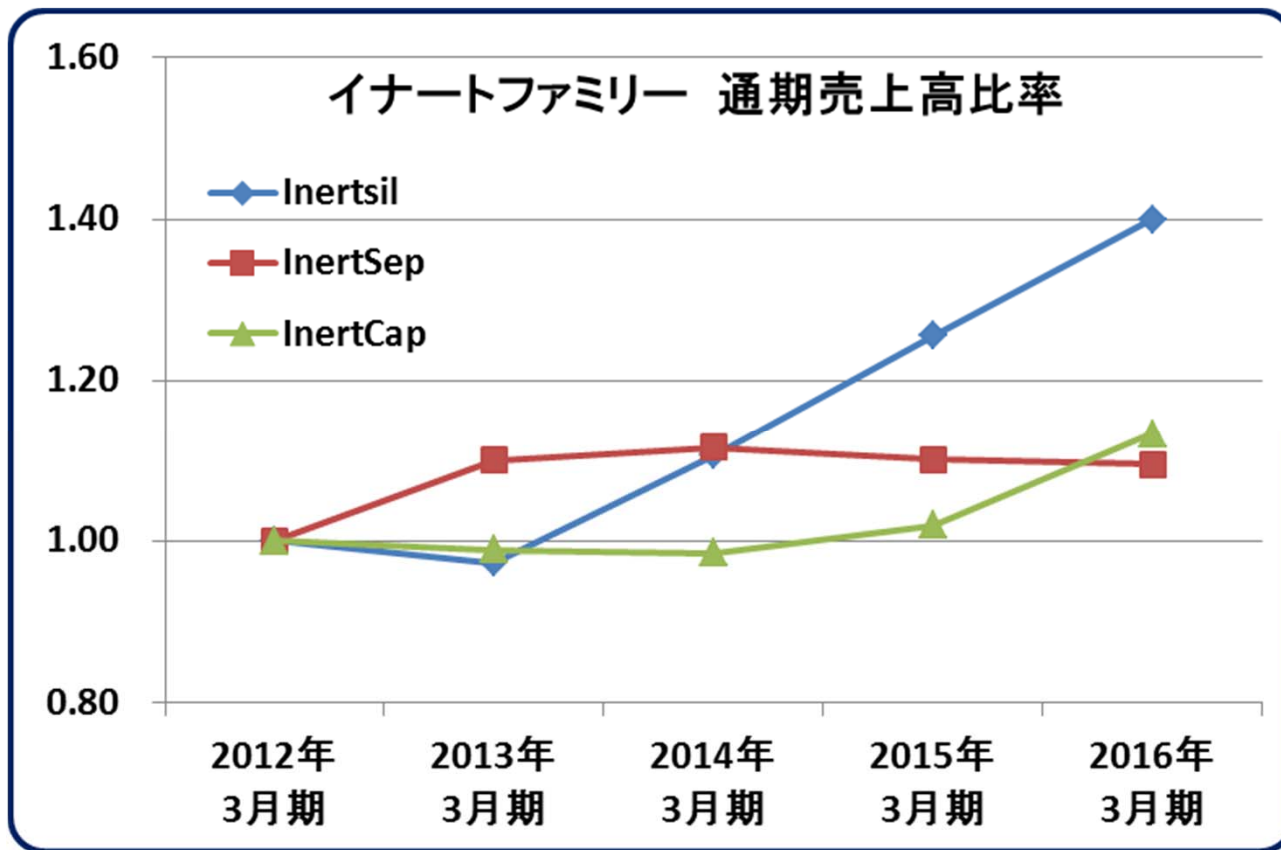
③製品・技術開発

両社の得意分野を融合させた新製品・新技術の共同開発



主要製品の動向

イナートファミリー 期別売上高比率



HPLC用カラム Inertsil



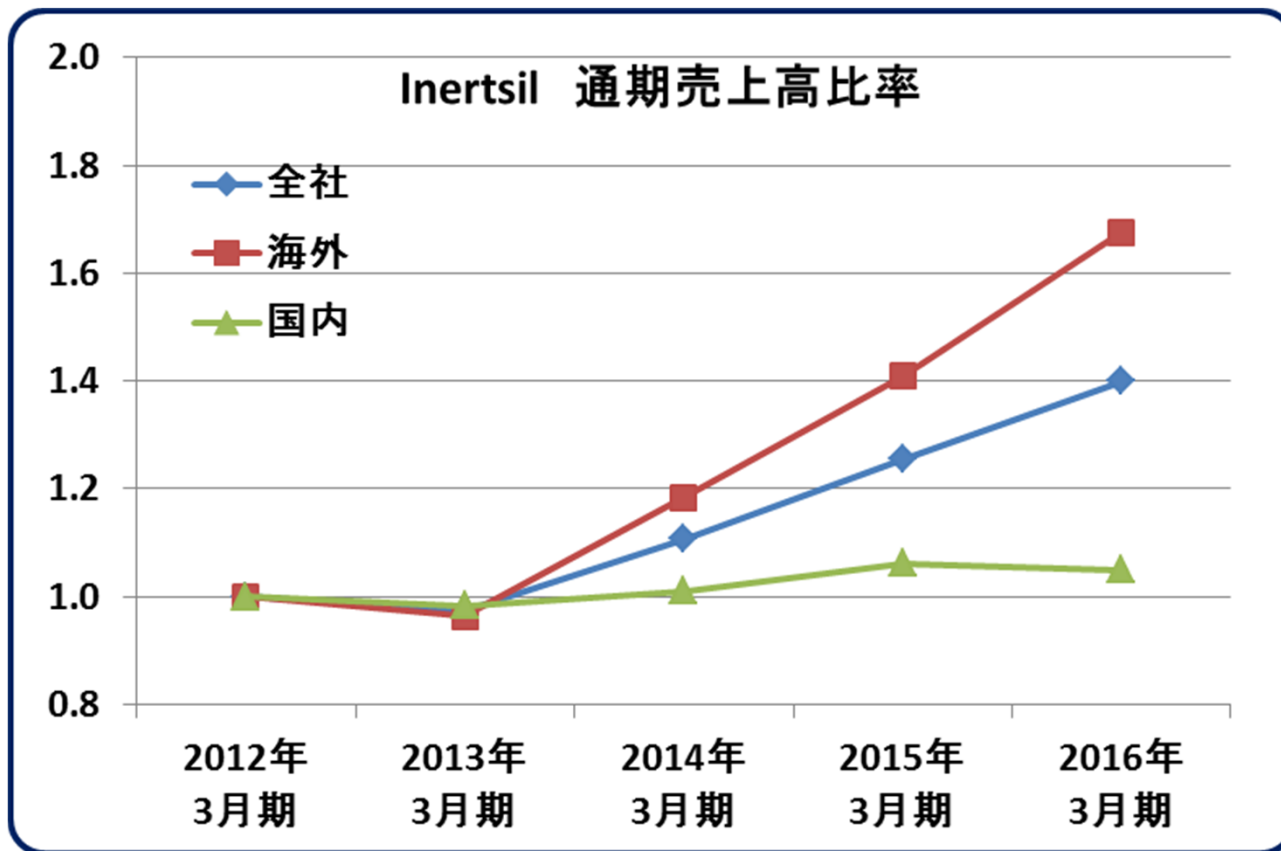
前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

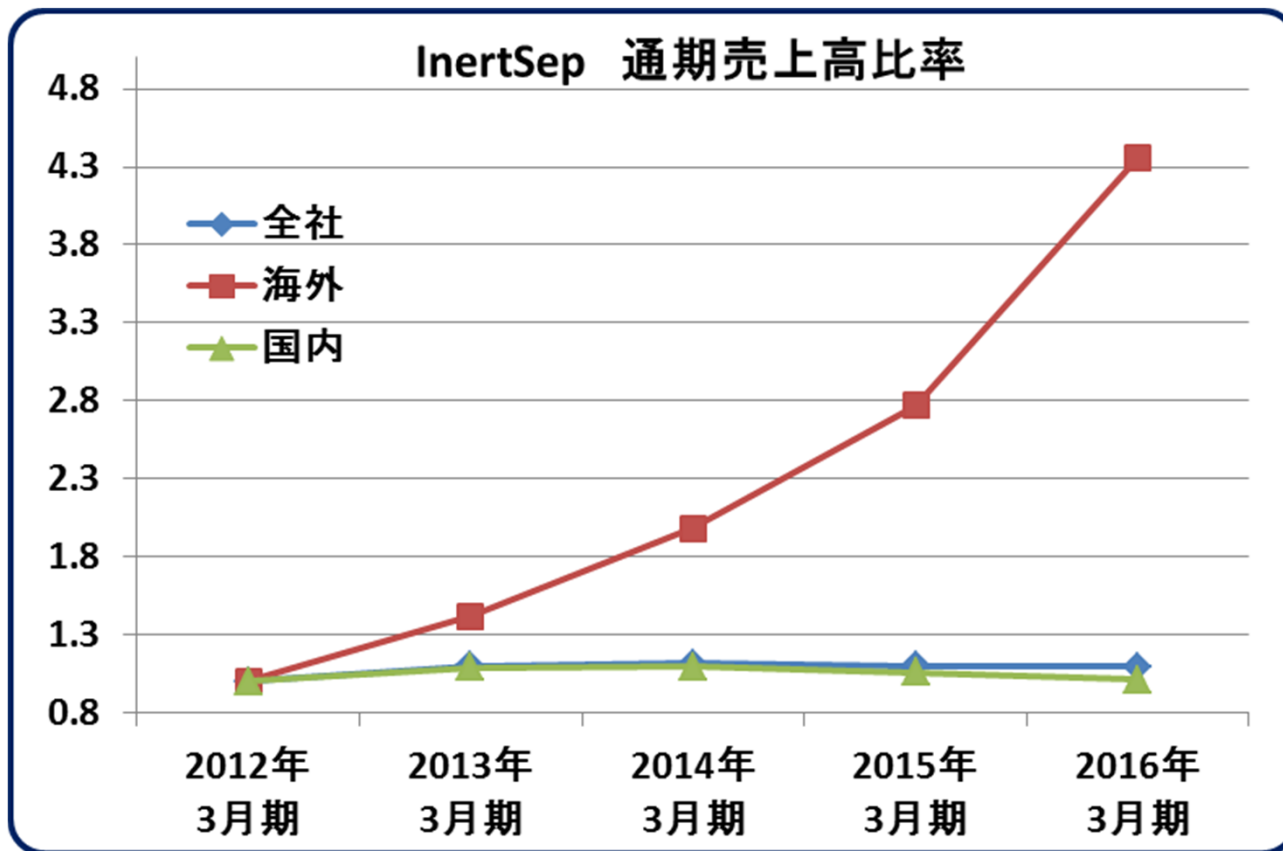
Inertsil 期別売上高比率



HPLC用カラム
Inertsil

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

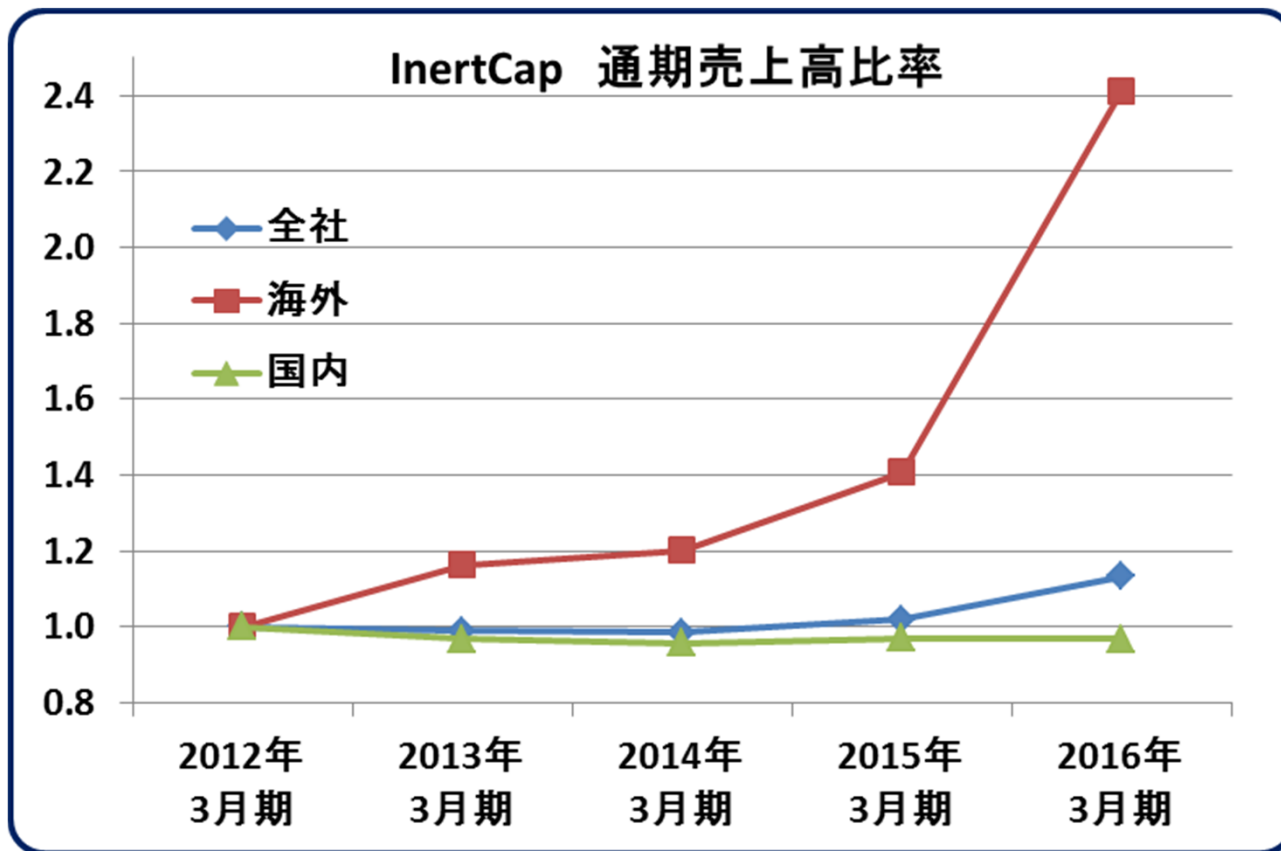
InertSep 期別売上高比率



前処理固相抽出カートリッジ
InertSep®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移

InertCap 期別売上高比率



GCキャピラリーカラム
InertCap®シリーズ

2012年3月期売上高を1.0とした際の各期売上高の推移



新製品紹介

新製品①

デジタルガス流量計 GF1010

GF 1010は、ガスの流量を瞬時に測定できる小型の体積流量計です。乾電池で動作するため、あらゆる場所に持ち運べ、誰でも簡単に使用できます。

特長

- ・広い流量範囲
- ・瞬時に起動
- ・簡単操作



シリコンカバー(オプション)



新製品②

定量ガス供給装置 CG 218

サンプリングバッグ内に一定量のガスを正確に計量、供給することができる装置です。設定ガスを供給後、自動停止するため、作業の省力化が可能になります。

特長

- ・供給量の良好な再現性
- ・装置本体からのブランク低減
- ・ブザーのお知らせ機能



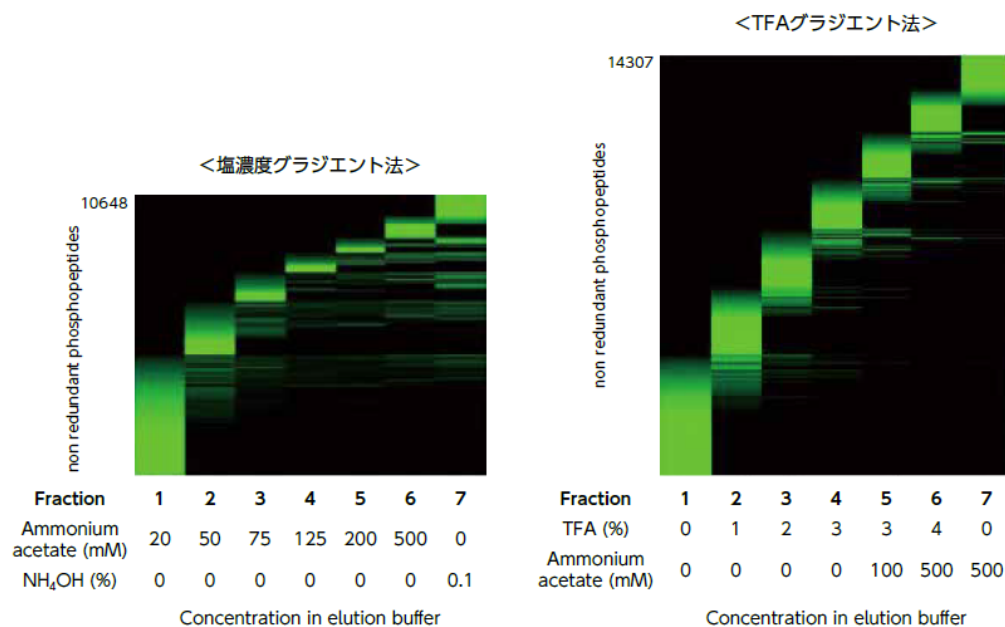
新製品③

ペプチド用脱塩・濃縮チップ GL-Tip SCX, SDB-SCX

従来の塩濃度グラジエント法よりも高い分画効率を実現するTFAグラジエント法(特許出願済)に最適化されたペプチド分画のためのチップカラムです。

特長

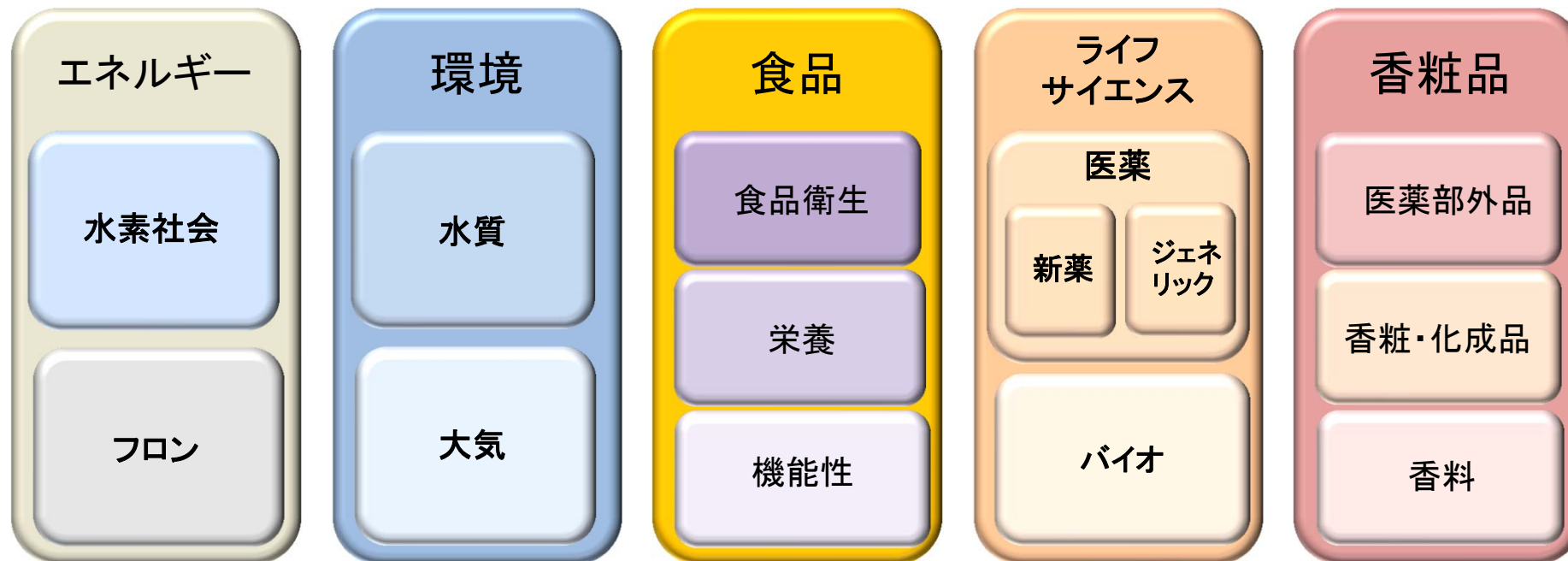
- ・各フラクションにおける重複の低減
- ・総ペプチド同定数の向上





市場戦略について

各市場における主要分野・主要製品



- ◆ 高速・小型ガス分析計 マイクロGC
- ◆ システムGC
- ◆ GC周辺

- ◆ 水質分析用 パージ・トラップ濃縮導入装置 PT6000
- ◆ 全自動固相抽出装置 AquaTrace
- ◆ 固相抽出
- ◆ HPLCカラム
- ◆ 試薬
- ◆ 無機関連

- ◆ 固相抽出
- ◆ HPLCカラム
- ◆ 食品分析用全自動固相抽出装置 G-Prep FA
- ◆ 高速液体クロマトグラフ GL7700
- ◆ DNA 精製キット MonoFas
- ◆ 無機関連

- ◆ HPLCカラム
- ◆ 前処理製品
- ◆ 前処理用スピнкаラム MonoSpin
- ◆ オミックス関連
- ◆ 液体ハンドリングロボット Microlab
- ◆ 分取HPLC

- ◆ HPLCカラム
- ◆ 前処理製品
- ◆ シリカモノリス捕集剤 MonoTrap
- ◆ におい嗅ぎ
- ◆ GC分取装置 VPS

エネルギー市場

◆水素エネルギー関連

有機ハイドライド測定システム



Agilent 490 マイクロ GC



◆自動車関係(社室内)に注力 国内および中国市場

サンプリングバック



サンプリングポンプ



SP208-1000Dual II

定量ガス供給装置 CG 218



精密分析



食品市場 関連製品群



1. HPLC各種分析システム&カラム



- アミノ酸分析システム
- 糖分析システム
- 有機酸分析システム
- 脂肪酸分析システム
- 色素分析システム
- ビタミン分析システム

試料調製から分析まで

2. GC分析システム&カラム



- 容器包装 ガス透過
- 容器包装 揮発性成分
- 香気成分分析システム
- 脂肪酸分析システム

試料調製から分析まで

3. 固相抽出分離剤



- 残留農薬分析
- カビ毒分析
- 動物医薬品
- 食品分析用全自動固相抽出装置 Gprep FA
- 残留農薬クリーンアップGPCシステム Gprep GPC

4. DNA分離精製



- 加工食品中DNA
- 植物中DNA
- 食品アレルギーDNA
- 自動化システム

5. 試料粉碎・試料混合均一化ツール



常温粉碎機



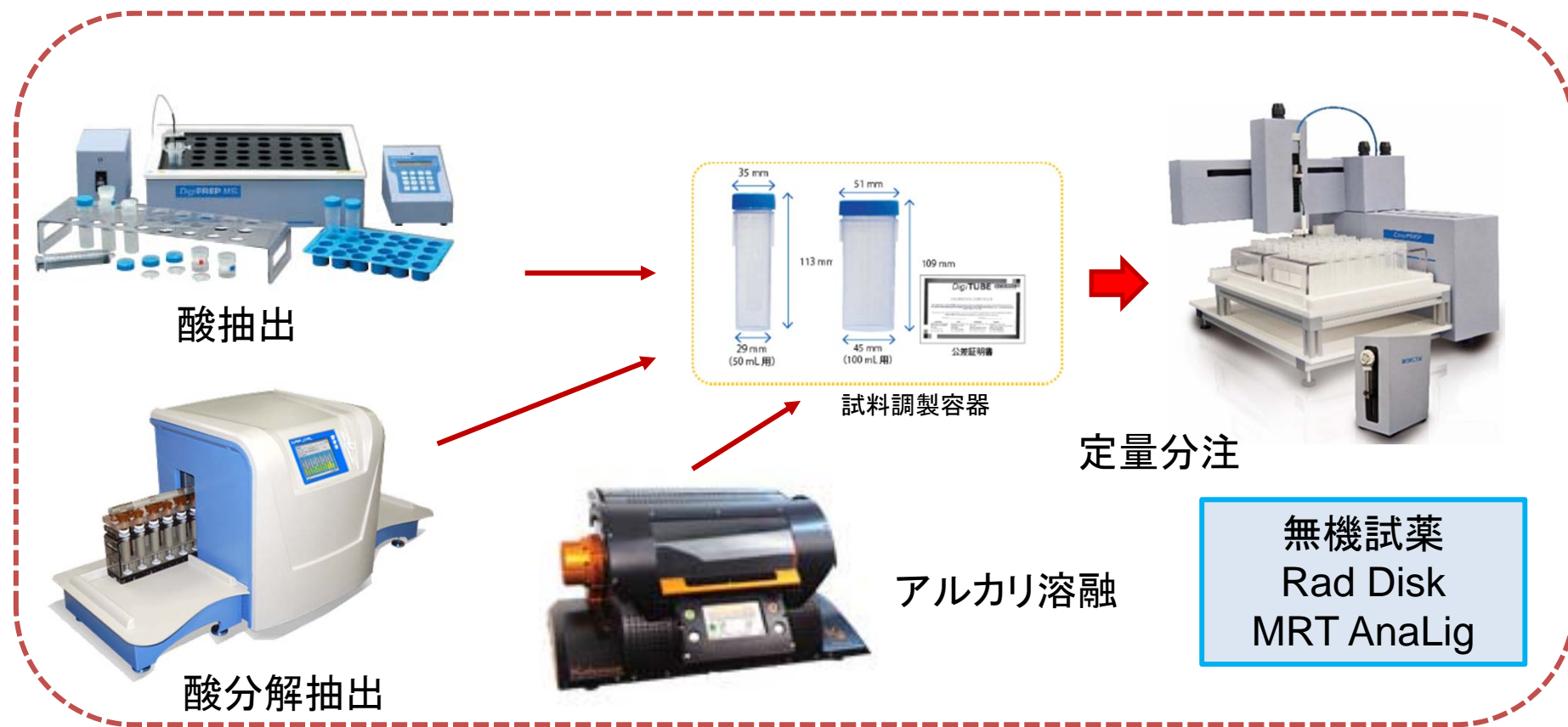
凍結粉碎機



6. 試料分解(酸分解、ケルダール分解)

環境市場 関連製品群

- 放射性廃棄物分析
- リサイクル燃料施設におけるU(ウラン)、Th(トリウム)の管理
- 放射性核種の分析方法の検討



環境市場 関連製品群



香粧品市場 関連製品群



◎香料分野

フレグランス系の香気成分分析製品

- ・消耗品 (MonoTrapやInertCapなど)
- ・におい嗅ぎなどのGC関連装置
- ・加熱脱着装置 ハンディTDなど

◎化粧品・医薬部外品市場

- ・前処理製品、LCカラム
- ・高速液体クロマトグラフ GL-7700
- ・GC系消耗品 (MonoTrapやInertCapなど)
- ・におい嗅ぎシステム OP275 proなど



シリカモノリス捕集 MonoTrap



GC分取装置 VPS2800



HPLCカラム
Inertsil



GCキャピラリーカラム
InertCap



におい嗅ぎシステム
OP275Pro
OPV277



高速液体クロマトグラフ GL-7700



シリンジフィルター
GLクロマトディスク

海外展開について



中国

アジア圏では、成長著しい中国市場を最重要視しています。

現地法人：島津技述（上海）商貿有限公司を通じてマーケティングや販売促進活動を更に充実させ、現地ニーズに対応する製品を強化する事により、更なる市場シェアの拡大を目指して参ります。

アメリカ

現地法人：GL Sciences, Inc. USAは、既存顧客への深耕により販売力を強化してまいりました。今後も既存顧客との関係を深めるとともに、LCカラム新製品投入により新規顧客の開拓を行い、シェア拡大を目指して参ります。

ヨーロッパ

欧州地域への販売は、従来各国販売代理店を通じて行われてきましたが、2014年5月から現地法人：GL Sciences B.V.を通じて、販売を行う体制に変更しております。物流や、顧客サポート、マーケティング等を集約する事で、販売体制を強化し、市場シェア拡大を目指して参ります。

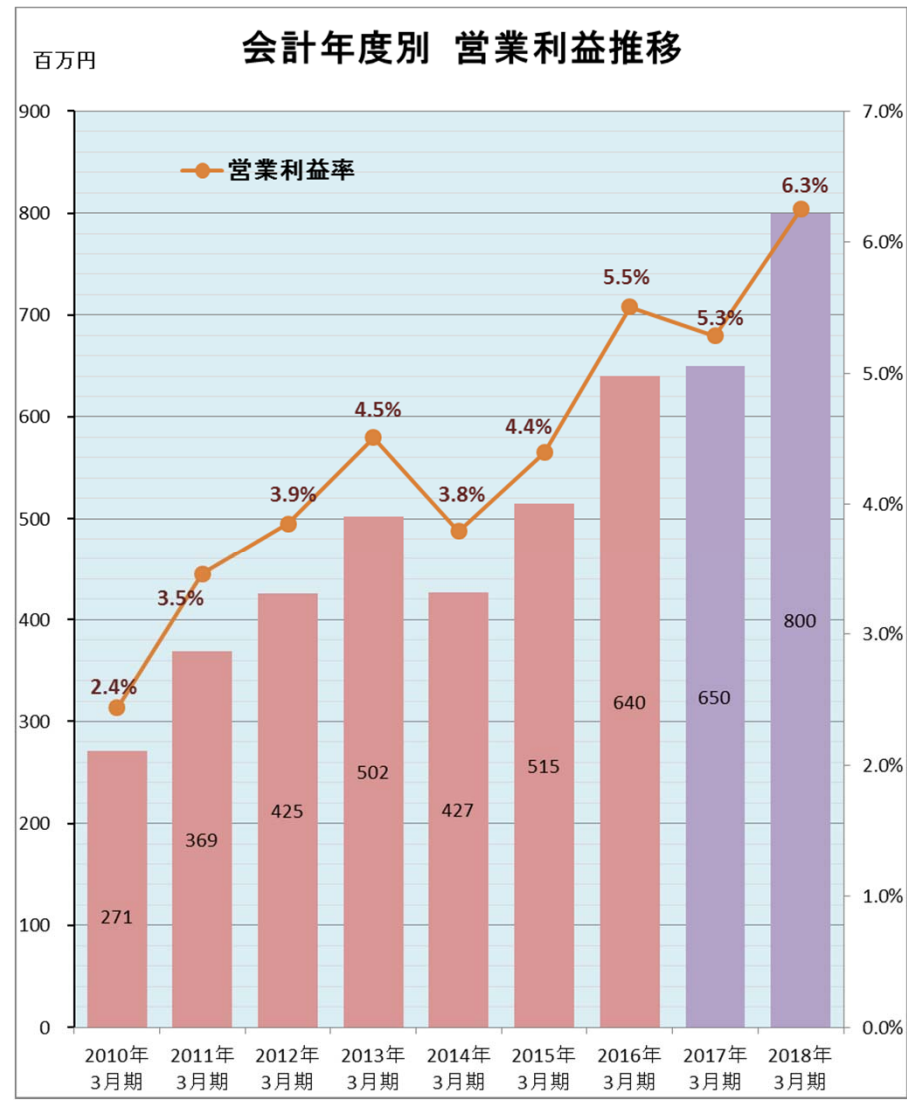
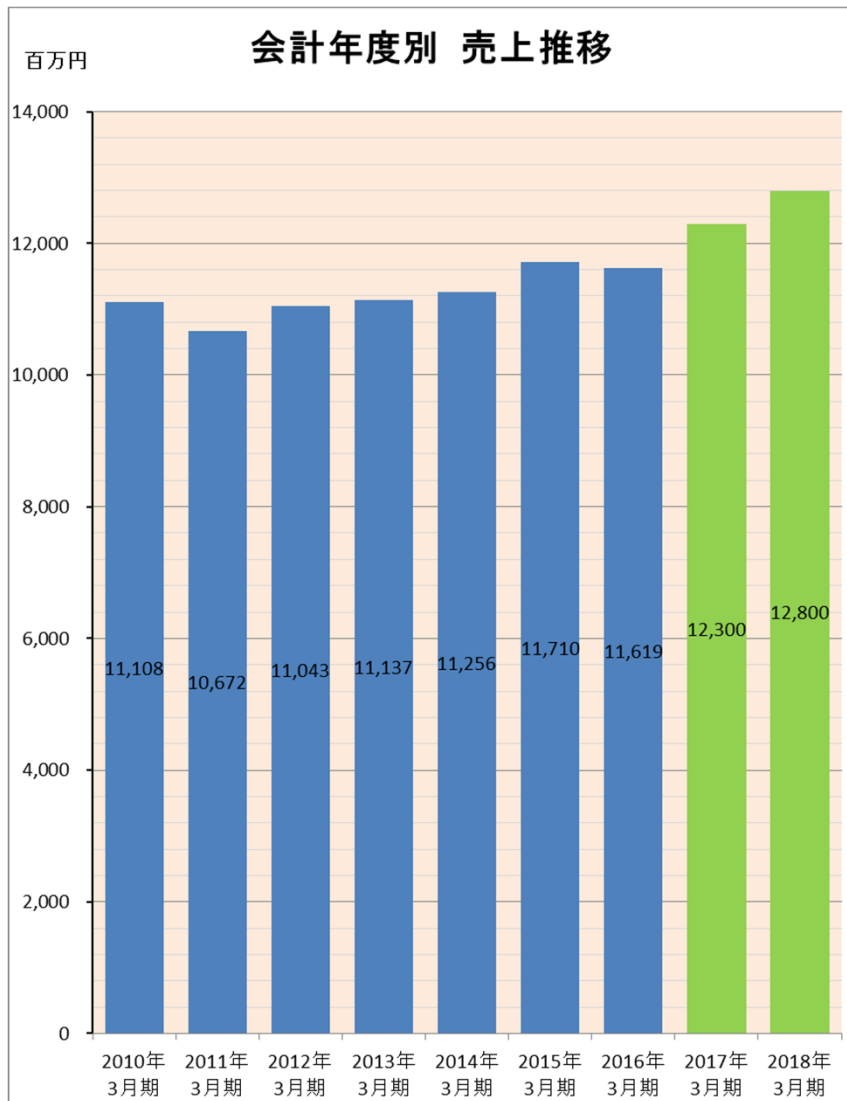
インド

インドでは現地代理店の協力により、インド全土にわたる強靱な販売網を活用して、長期安定的な販売を行っていきます。また、最終顧客である製薬会社の個別訪問を強化する事で、新規顧客を開拓し、市場シェアの拡大を目指して参ります。



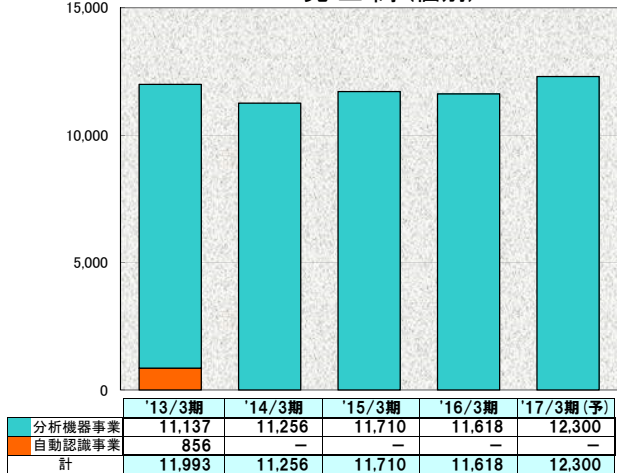
業績推移と計画

業績推移と計画(単体)

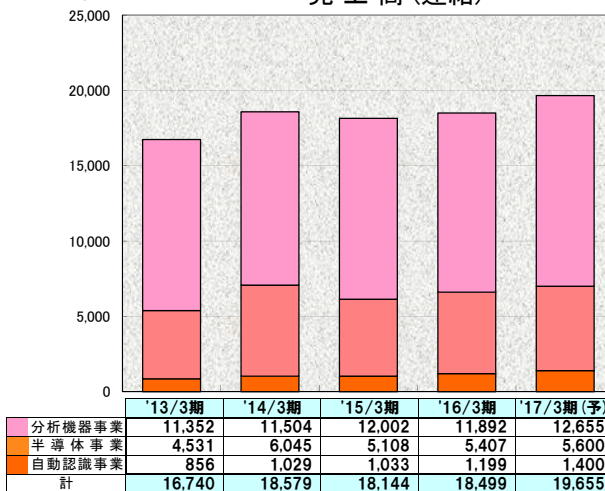


ご注意) 当資料は、累計期間(2015年4月から2016年3月まで)にて作成しております。
 ※ 2013年(平成25年)4月に自動認識事業を分社化したため、(個別)表示の'14/3期以降は、自動認識事業は含まれておりませんのでご注意ください。

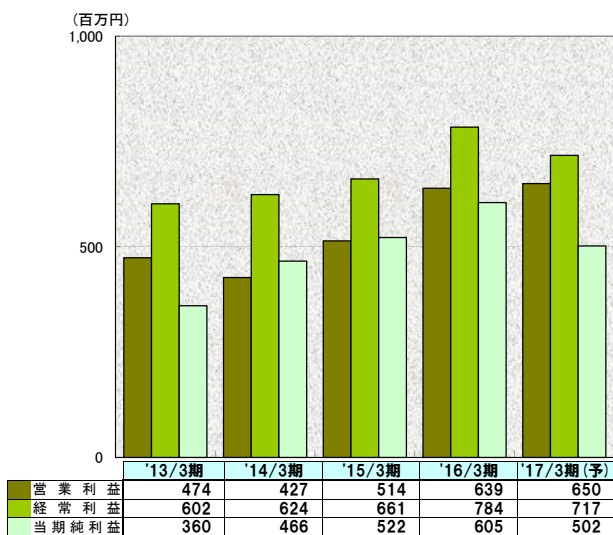
(百万円) 売上高(個別)



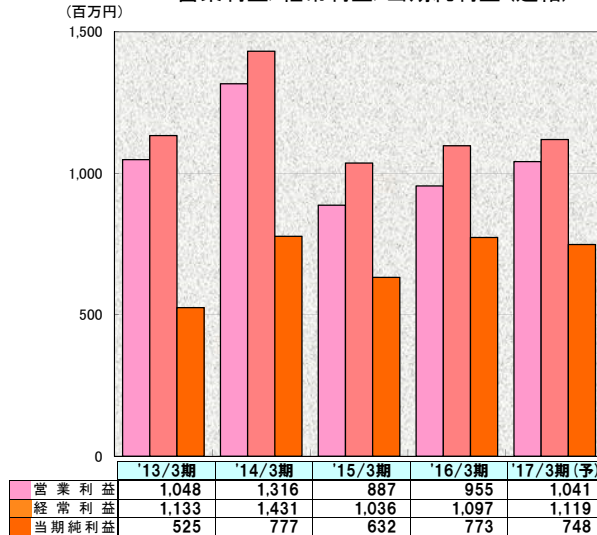
(百万円) 売上高(連結)



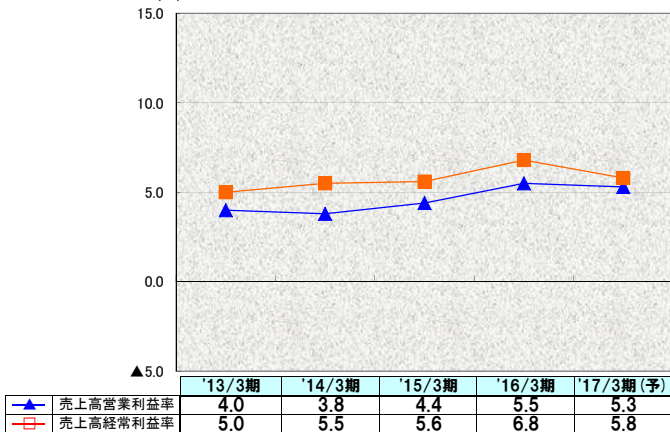
営業利益/経常利益/当期純利益(個別)



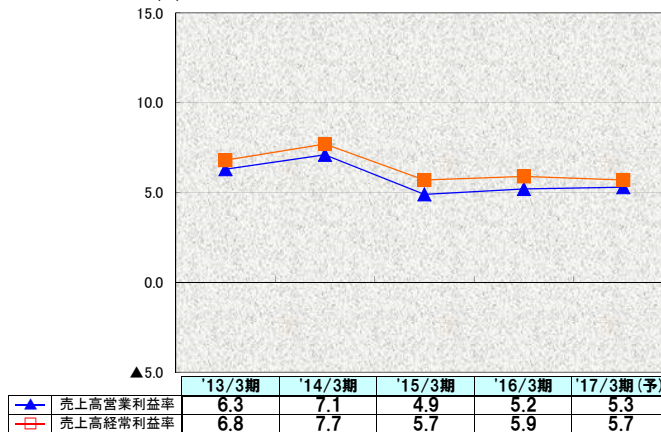
営業利益/経常利益/当期純利益(連結)



売上高利益率(個別)



売上高利益率(連結)



会社別実績及び計画数値

※ 2013年(平成25年)4月 分社化

(単位:百万円)

	ジーエルサイエンス株式会社(個別)				テクノオウツ株式会社(連結)				ジーエルソリューションズ株式会社				連結決算			
	分析機器事業				半導体事業				自動認識事業(※)							
	'14/3期	'15/3期	'16/3期	'17/3期(予)	'14/3期	'15/3期	'16/3期	'17/3期(予)	'14/3期	'15/3期	'16/3期	'17/3期(予)	'14/3期	'15/3期	'16/3期	'17/3期(予)
売上高	11,256	11,710	11,618	12,300	6,114	5,177	5,478	5,600	1,032	1,038	1,203	1,400	18,579	18,144	18,499	19,655
売上総利益	3,920	4,001	4,115	4,347	2,192	1,400	1,309	1,301	389	396	423	512	6,701	6,045	6,088	6,425
営業利益	427	514	639	650	766	218	181	214	38	31	31	60	1,316	887	955	1,041
経常利益	624	661	784	717	742	263	208	208	39	31	29	58	1,431	1,036	1,097	1,119
税引前当期純利益	613	682	800	717	736	261	216	208	38	31	29	58	1,407	997	1,105	1,119
当期純利益	466	522	605	502	438	132	177	147	24	22	18	39	777	632	773	748

第49期 4Q 個別決算
 販管費・営業外損益・特別損益 内訳

単位：千円(単位未満 切捨て)

(販管費)	増減額		増減額	増減率	増減額	増減率	増減額		
	前期	当期					前期	当期	増減額
運賃荷造費	90,241	94,250	4,008						
広告宣伝費	74,647	70,541	△4,105						
貸倒引当金繰入	0	157	157						
役員報酬	116,873	113,033	△3,839						
給料手当	1,089,931	1,124,123	34,191						
賞与	206,170	234,256	28,085						
賞与引当金繰入	155,640	161,593	5,952						
退職給付引当金繰入	52,548	△15,835	△68,383						
役員退職給与引当金繰入	12,921	12,660	△261						
法定福利費	231,570	240,414	8,843						
福利厚生費	28,917	33,363	4,445						
賃借料	111,271	114,221	2,949						
減価償却費	87,295	78,690	△8,605						
公租公課	44,500	59,219	14,718						
交際費	13,993	11,228	△2,765						
旅費交通費	132,574	130,550	△2,023						
通信費	26,229	28,289	2,059						
試験研究費	705,320	662,217	△43,103						
支払手数料	117,313	118,458	1,144						
車両費	17,963	14,567	△3,395						
消耗品費	47,487	57,322	9,834						
その他	123,121	132,570	9,449						
計	3,486,536	3,475,893	△10,642						
売上高					11,710,442	11,618,669	△91,773	△ 0.78	
売上原価					7,709,316	7,502,962	△206,354	△ 2.68	
売上総利益					4,001,125	4,115,706	114,580	2.86	
販管費					3,486,536	3,475,893	△10,642	△ 0.31	
営業利益					514,589	639,812	125,223	24.33	
営業外収益					165,908	177,095	11,186		
営業外費用					19,076	32,389	13,313		
経常利益					661,421	784,518	123,096	18.61	
特別利益					57,679	16,035	△41,644		
特別損失					36,749	526	△36,223		
税引前当期利益					682,351	800,027	117,675	17.25	
法人税等					151,521	150,785	△735		
法人税等調整額					8,662	44,086	35,423		
当期純利益					522,167	605,154	82,987	15.89	
売上総利益率					34.17%	35.42%		1.25%	
営業利益率					4.39%	5.51%		1.12%	
経常利益率					5.65%	6.75%		1.10%	

	前期	当期	増減額
(営業外収益)			
受取利息	2,505	2,285	△220
受取配当金	96,091	101,246	5,155
為替差益	0	0	0
保険金収入	14,448	30,899	16,450
雑収入	52,863	42,664	△10,198
計	165,908	177,095	11,186
(営業外費用)			
支払利息	15,557	10,932	△4,624
手形売却損(割引料)	0	0	0
為替差損	2,341	17,477	15,136
雑損失	1,178	3,980	2,802
計	19,076	32,389	13,313
(特別利益)			
貸倒引当金戻入益	57,675	16,035	△41,640
固定資産売却益	3	0	△3
投資有価証券売却益	0	0	0
計	57,679	16,035	△41,644
(特別損失)			
固定資産除売却損	36,749	526	△36,223
減損損失	0	0	0
投資有価証券評価損	0	0	0
貸倒引当金繰入	0	0	0
計	36,749	526	△36,223